

<活動報告書>

フリガナ	カナガワケンリツフジサワコウカコウトウガッコウ		
①団体名・学校名	神奈川県立藤沢工科高等学校		
②担当者	フリガナ		
	氏名		
	所属 役職	総合技術科建築系・教諭	
	TEL	0466-43-3402	
E-mail			
③申請テーマ	建築教育におけるSDGsの実践		
④活動期間	令和4年 4月 ~ 令和4年 12月		
⑤活動内容を記載	<p>神奈川県立藤沢工科高等学校では、2018年に地域貢献の一環として、地元の歴史を紹介する観光施設「藤沢市ふじさわ宿交流館」に生徒が製作した木製ベンチを寄贈しました。屋外に置かれたこのベンチは来場者や地元住民に愛されてきたものの、歳月と風雨の影響で劣化が見られるようになりました。</p> <p>そこで本年度、同校ではこの劣化部分を修理してベンチを再生させるプロジェクトを学習の一環として実施しました。新たに作るのではなく修理するという選択は、「SDGsの実践」という教育的意味も含んでいます。</p> <p>作業は同校の木材加工についての基礎的な知識や技能を学ぶ授業として行いました。地域に寄贈したものを作り直して再生する今回の取り組みを通して、生徒の知識や技術を深めることができたほか、地域住民とのコミュニケーションを深めることも大きな成果となりました。</p> <p>新学習指導要領では「対話的な学び」が重要です。これは子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める対話的な学びが実現できているかが問われていますが、この活動実践を通じて該当するところが多々あったように思われます。</p>		
⑥活動費用合計	251,681円		
⑦別紙説明資料の有無	ある ・ <b>なし</b>		

<活動状況写真>

【写真1】



(状況説明)  
修復作業は屋外に設置されていたため、電動工具による木材の表面研磨から始めました。再塗装して艶だしするために全体を表面研磨した。電動工具が使えない箇所は紙やすりを用いて地道に手作業で行いました。修復作業は作業を行う実習棟が耐震改修工事に入ると使用できなくなるのでその前に行う必要があるため、授業時間だけでは足りなく放課後も残って行いました。

【写真2】



(状況説明)  
再生したベンチを施設に設置した様子です。ニスで再塗装すると、色褪せていた木材表面に艶がもどり、ベンチが息を吹き返したように見えます。また使い続けることで木材の持つ風合いが出てきて、江戸時代に藤沢宿としてにぎわった様子を紹介する藤沢市ふじさわ宿交流館の景観にとけこむ、ふさわしいベンチとなりました。

【写真3】



(状況説明)  
生徒は今回の実習を通して、木材の知識や技能を深めることができました。また、先輩がつくったものを自分たちが再生して使い続けることで、SDGsの「住み続けられるまちづくり」、「つくる責任、使う責任」、「陸の豊かさをまもる」といった「持続可能な開発目標」に取り組んでいるという達成感、満足感を実感できました。またメンバーで協力して作業することで自己有用感、幅広い人間関係を築くことができたと思います。